

いま、世界に伝えたい5つのキーワード 「独学」「発光」「友情」「ケア」「毒」

6/23(火)からオンラインチケットを発売

ヨコハマトリエンナーレ2020は、6月23日(火) 10時からオンラインチケットを発売します。併せて、本展のみどころとなる作家・作品を紹介します。

2020年、私たちは新型コロナウイルス感染拡大という大きな困難に直面しました。

ヨコハマトリエンナーレ2020「AFTERGLOW—光の破片をつかまえる」には、こんな今だからこそみなさんとともに考えたいテーマが詰まっています。

アーティストック・ディレクターであるラクス・メディア・コレクティブは、展示の鍵となる重要な言葉をいくつかあげています。

「独学」自らたくましく学ぶ。

「発光」学んで得た光を遠くまで投げかける。

「友情」光の中で友情を育む。

「ケア」互いを慈しむ。

「毒」世界に否応なく存在する毒と共存する。

自分で考え、ひとを思いやる—いずれも新型コロナウイルス流行下の私たちの経験を予見するかのような内容です。特に「毒」との共存という考え方は、コロナ後の世界を生きざるをえない私たちにとって示唆的です。

タイトルの「AFTERGLOW (アフターグロー)」とは、ビックバンのあと宇宙に発せられ、今も私たちに降り注ぐ光のこと。時空を超えて広がる光をイメージします。

本展では、大切な光を自ら発見してつかみとる力と、他者を排除することなく、共生のための道をさぐるすべについて、みなさんと一緒に考えます。

■みどころとなる作家・作品

ニック・ケイヴ Nick CAVE



Photo by Sandro

1959年、ミズーリ州フルトン（アメリカ）生まれ、シカゴを拠点に活動。

ロドニー・キング事件の無罪判決（1992年）をきっかけに起きた、ロサンゼルス暴動へのレスポンスとして制作された着脱可能な彫刻作品《サウンドスーツ》で知られる。鮮やかな色彩と豊かな装飾性を特徴とするケイヴの作品は、人種、ジェンダー、社会階級に基づく差別への問いを投げかける。



《回転する森》2016
©Nick Cave, Courtesy of the artist and Jack Shainman Gallery,
Photo by James Prinz

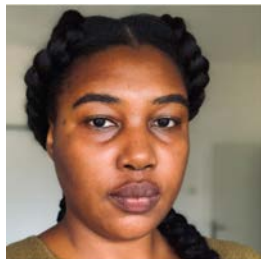
20 ヨコハマ トリエンナーレ 20 AFTERGLOW 光の破片をつかまえる

プレスリリース — 2020年6月22日(月)

ラヒマ・ガンボ Rahima GAMBO

1986年、ロンドン（英国）生まれ、アブジャ（ナイジェリア）を拠点に活動。

写真や映像、ドローイングなどを用いたインスタレーションやパフォーマンスを手がける。近年は、ナイジェリア北東部および北部を拠点に活動するイスラム過激派組織ボコ・ハラムの脅威を生きのびた少女たちが、再び教育の機会を得て、学校で遊び心を取り戻していく様子をとらえたシリーズ「タツニヤ（物語）」で知られる。



《タツニヤ（物語）》2017 ©Rahima Gambo

インゲラ・イルマン Ingela IHRMAN

1985年、カルマル（スウェーデン）生まれ、マルメ（同）を拠点に活動。

イルマンは、植物や生物をモチーフとして、工芸的な手法によって巨大なオブジェを制作、それらをシアトリカルな設定で配したインスタレーションにより、今日の自然環境と人間社会との関係に問いを投げかける。

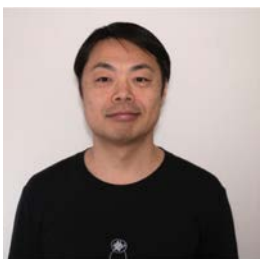


《ジャイアント・ホグウィード》（部分）2016/2020
Photo by Sebastian Dahlqvist

岩井 優 IWAI Masaru

1975年、京都府生まれ、東京都を拠点に活動。

洗浄や清掃という日常行為に着目し、その背後にある社会的・記号的意味を顕在化するような映像やインスタレーション、パフォーマンスなどを発表。本展では、「エピソード」の一つとして、作家自身が作業員として定期的に携わった除染作業の経験を下敷きに、一般参加者とディスカッションし、清掃にまつわるアクション《彗星たち》を行う。



©Masaru IWAI, Courtesy of Takuro Someya Contemporary Art

レーヌカ・ラジーヴ Renuka RAJIV

1985年、チェンナイ（インド）生まれ、バンガロール（同）を拠点に活動。

他者とのコミュニケーション手段として制作されるラジーヴの作品には、セクシュアリティやジェンダー、家族という概念や、他者との関係性への言及を読み取ることができる。ドローイングや版画を主体に、近年ではアーティスト・ブック、同人雑誌、張り子やテキスタイルなど表現の手法を多様化させており、本展では横浜で制作する新作に近作を交えたインスタレーションを発表する。



《サイボーグは敏感》
2020
© Renuka Rajiv

20 ヨコハマ トリエンナーレ 20 AFTERGLOW 光の破片をつかまえる

プレスリリース — 2020年6月22日(月)

エヴァ・ファブレガス Eva FÀBREGAS



Photo by Migue Barreto,
TEA Tenerife Espacio de las Artes

1988年、バルセロナ（スペイン）生まれ、ロンドンを拠点に活動。大型のソフト・スカルプチャーや鑑賞者の身体を包み込むようなインスタレーションを通して、人間の身体や欲望、情動が、産業デザインからどのような影響を受けるのかを探究している。



《ボンピング》2019

世界の様々な地域から、若手作家が多数参加

- ・参加アーティスト：65組
- ・若さ、新鮮さ：1980年代、90年代生まれが35名 20代、30代が53%
- ・参加地域の多様さ：アジア31組、ヨーロッパ14組、中東8組、アフリカ4組、大洋州4組、北米1組、中南米2組 *1組は未公表
- ・日本で初めて作品を発表する作家：34組
- ・新たに制作する作品+すでに発表されたものを本展のために再構成する作品：46組

ヨコハマトリエンナーレ2020 チケット *詳しくはプレス資料7ページをご確認ください

チケットは、日時指定の事前予約制です。
毎月1日午前10時（日本時間）に、翌月分のチケットを発売します。
6月23日（火）10時より、7月分のチケットを発売いたします。

一般	大学生・専門学校生	高校生	中学生以下
2,000円	1,200円	800円	無料（事前予約不要）

チケット購入方法

オンラインによる購入

公式WEBサイトから購入できます。 <https://www.yokohamatriennale.jp>

会場窓口での購入

オンラインチケットに空きがある場合は、横浜美術館、プロット48のチケット販売窓口で購入できます。（開場日のみ・閉場30分前まで）

※オンラインチケットをA4サイズの用紙にプリントアウトしてお渡しします。

※日本郵船歴史博物館、BankART Station、黄金町バザール2020会場内インフォメーションでは、チケットをご購入いただけません。

チケット情報は
こちら



ヨコハマトリエンナーレ2020「AFTERGLOW—光の破片をつかまえる」

いま最も刺激あふれる現代アートは、横浜から世界へ

展覧会会期：2020年7月17日（金）～10月11日（日）

※開場日数78日、毎週木曜日休場（7/23、8/13、10/8を除く）

会場：横浜美術館、プロット48

アーティストック・ディレクター：ラクス・メディア・コレクティブ（Raqs Media Collective）

主催：横浜市、（公財）横浜市芸術文化振興財団、NHK、朝日新聞社、横浜トリエンナーレ組織委員会

公式WEB：<https://www.yokohamatriennale.jp>

Twitter：@yokotori_

【プレスリリースお問い合わせ】ヨコハマトリエンナーレ2020広報事務局（株式会社プラップジャパン：横澤、本郷、増田）

E-MAIL：yokotori2020pr@prap.co.jp TEL 03-4580-9109

【横浜トリエンナーレ組織委員会 お問い合わせ】横浜トリエンナーレ組織委員会事務局広報担当（高橋）

E-MAIL：press@yokohamatriennale.jp TEL 045-663-7232（平日10:00～18:00）